

家庭との連携を基に、生徒が自ら学びを活用する家庭科における授業づくり

辻 清美（熊本大学教育学部附属特別支援学校） 上園 宗徳（熊本大学教育学部附属特別支援学校） 八幡 彩子（熊本大学大学院教育学研究科）

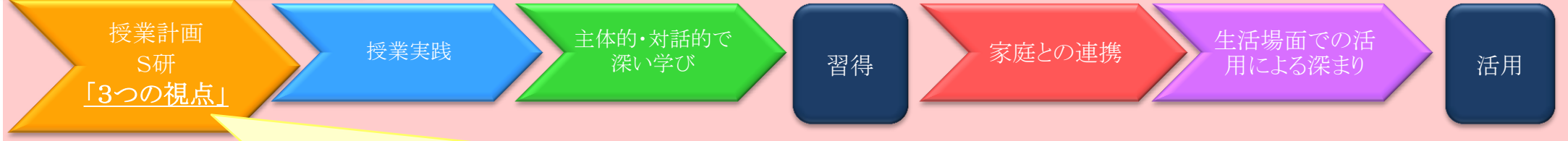
1 仮説

- ① 授業づくりにおいて、「3つの視点」を基に学習を組み立てていくことで、主体的・対話的で深い学びにつながるのではないか。
- ② 家庭との連携を強化することで、授業で育まれた力を、実際の家庭生活や社会生活に汎化することができるのではないか。

2 現状及び課題

- ① 生徒のこれまでの学びの違いや発達段階の違いがある中で、どのように家庭科の見方・考え方を踏まえた学習を組み立てていくかが課題である。
- ② 学びのサイクルとして、授業で育んだ力を、実際の家庭生活や社会生活で活用し、学びを深めることに課題がある。

3 研究の方法・実践



授業構成

つかむ 見通す	・「課題認識」をする ・なぜ学ぶかを考える
さぐる	・「課題解決」に向かう ・気づき→考える→話合う
深める	・「実践」する ・具体的内容を体験する
まとめる 振り返る	・何を学んだかを確認する ・知識の定着と評価

主体的活動への工夫

- ①思考ツールの活用
・自分の考えをまとめたり、整理したりする
・考える過程を大切にする
- ②生徒の実態に応じた工夫
・生徒の理解度に合わせてシートの作成
・記述方法やイラスト等での視覚的な工夫
- ③「評価」の活用
・知識の定着の確認
・自己評価・他者評価

家庭との連携

- ＜家庭とつながるツール＞
- 連絡帳
・家事等の欄の活用
 - 宿題
・ワークシートの活用
 - 家庭ブック
・学習資料の活用
・家庭の家事と連携
- ＜親子で取り組む学習＞
- 親子調理学習
 - 親子給食

授業構成（取組および生徒の変容）～「深める（学んだ知識を実践、体験する）」を中心に～



主体的活動への工夫

- 思考を整理 深める板書
- 全員の考えなどを板書することで、情報を視覚的に捉え、比較することができる。友達の考えを参考に、新たな考えに気づき、自分の思考を深めることもできる。

家庭との連携

- 【連絡帳】
学校と家庭で情報共有
- 【家庭Book】
家庭で実践するきっかけに。学校での学びをもとに、各家庭、自分に合うやり方を見つけ、定着と般化を図る。
- 次はこうしてみよう！

4 まとめ（成果と課題）

＜授業構成＞

- ①「なぜ、なんで」を考える授業
→生徒が課題認識をした学びによる知識の深まり
- ②知識を体験する授業
→实际的・具体的内容を体験することでの知識の理解と定着

＜主体的活動の工夫＞

- ①思考を整理し共有する板書
→友だちの意見を参考にした自らの考えの深まりや広がり
- ②個に実態に応じたワークシート
→一斉授業で学習を進める上で、個々の生徒に応じた支援

＜家庭との連携＞

- ①家庭ブック
→授業で学んだことを家庭でやってみようとするきっかけづくり
- ②連絡帳・親子学習
→生徒の学びを保護者と教師でリアルに共有し、チャレンジ意欲へ

「課題」

- ・家庭ブックの更なる活用
→単元毎での家庭との共有
- ・生徒の自己評価のあり方
→生徒の実態に応じた振り返りと自己評価の視点